

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道・稚内市)

実施報告書 (概要版)

北海道稚内市について

稚内市は日本の北端に位置し、宗谷海峡を隔てたわずか43kmの距離にロシア連邦・サハリン州(旧・樺太)を望む「国境のまち」です。

稚内市では、地域防災体制の強化と市民の防災意識の高揚を目指し、住民や防災訓練関係機関が参加する「総合防災訓練」を従来から2年に1回、実施しており、平成29年度は午前と午後で想定平成29年度は午前と午後で想定する災害を変えた、二部構成による総合防災訓練(一部:大雨による土砂災害を想定、二部:日本海サロベツ断層帯を震源とする地震による大津波警報の発表を想定)を実施しました。

平成27年10月には、風水害や地震・津波等の災害発生時に備え、自力又は家族の力だけで避難することが難しい「避難行動要支援者」の避難支援のため、「稚内市避難行動要支援者避難支援計画」を策定し、市の防災、福祉、保健の各部門や民生委員、自主防災組織、町内会と連携しつつ、対策を推進しています。

また、防災情報を伝達する手段として、地域のコミュニティ放送局である「(株)エフエムわかかない」と連携した「緊急告知防災ラジオ」を整備し、広域にわたる市の行政区域にいち早く防災情報を伝達する仕組みを確立して、平成24年から全世帯を対象に防災ラジオを貸与しています。



訓練概要

- 訓練想定：10月28日（日）午前9時、サロベツ断層帯を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生し、稚内市（気象庁観測所）では震度6弱を観測、稚内市声問地区の沿岸部では、20分後に約4.4m（最大津波高）の到達が予想される。
稚内市は、地震発生後ただちに住民に対し、緊急告知防災ラジオ等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年10月28日（日）09：00～12：30
- 実施地区：声問地区
- 主催：内閣府、北海道、稚内市
- 参加者数：約300名
- 参加機関：各地区町内会、声問自主防災会、陸上自衛隊第3普通科連隊、航空自衛隊第18警戒隊、北海道開発局稚内開発建設部、稚内地方气象台、稚内警察署、稚内地区消防事務組合消防署、稚内消防団、稚内市赤十字奉仕団、北海道コカ・コーラボトリング（株）稚内事業所、（株）エフエムわっかない、（株）ホテルめぐま 等

訓練の評価

訓練当日は、曇り時々雨の予報であったが、訓練時間中は晴れ間がのぞく、よい天気になり、声問地区の住民約230名を主体に、防災関係機関や企業等を合わせ、約300名が終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んだ。

特に声問地区自主防災会発足以来、初めて行う避難訓練であったが、役員の参加呼び掛けに応じて多数の住民が参加し、かつ家族連れからお年寄りまで、幅広い年齢層が参加した有意義な訓練となった。

訓練終了後、訓練会場において実施したアンケート調査結果や防災関係職員の所見及び評価記録員の気付き事項を整理した結果、住民の防災意識が高いという評価の一方で、次のような意見や指摘があった。

- 地域の特性上、避難行動に制約がある高齢者が多いため、避難行動の支援要領や避難時の手段（車両の使用）等を要支援者ごとに検討し、迅速に津波浸水地域外へ避難させる必要がある。
- 地域によっては、指定された避難場所まで距離があり、津波第一波到達時間までに避難できない可能性のある地域があるため、垂直避難が可能な、あらたな避難場所（避難ビル等）の指定を検討する必要がある。
- 警報等の伝達手段は、「緊急告知防災ラジオ」によるところが大であり、屋外で行動している人々には伝わりにくいことから、サイレンにより警報音を発する等、補助的な伝達手段の検討が必要と思われる。

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練

市全域を対象に、自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置いた、安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施し、市民が、それぞれの場所で訓練に参加した。

▼ホテルめぐま



▼声問小学校



▼声問地区



09:05～09:30 津波避難訓練

シェイクアウト訓練後、声問地区の住民は計画で定めた津波避難場所（声問小学校またはホテルめぐま）を目指して避難行動を開始し、避難場所では名簿により安否確認を行った。

▼津波避難ビルへ



▼声問小学校へ



▼声問小学校



09:30～ 防災講話及び災害対策車両等の展示

稚内地方気象台の講師による、地震・津波災害及び豪雨災害に関する防災講話を聴講するとともに北海道開発局による災害対策車両等の展示を行った。

▼気象台による防災講話



▼災害対策車両の展示



09:00～12:30 避難所開設・運営訓練及び物資配給訓練

津波浸水地域外の住民が、声問小学校に避難所を開設し、避難者の受入れ訓練を行った。その後、避難用品の実習、住民、関係機関による物資配給訓練を実施した。

▼避難所開設・運営訓練



▼自衛隊による炊き出し



▼物資配給訓練

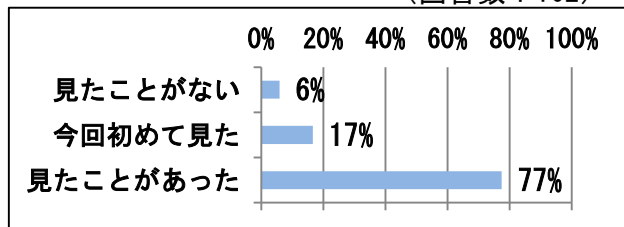


アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：102人）

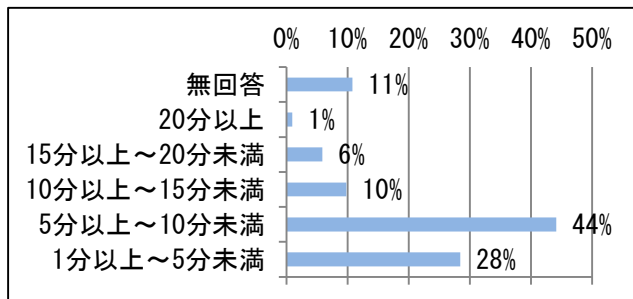
稚内市が作成した「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。

（回答数：102）



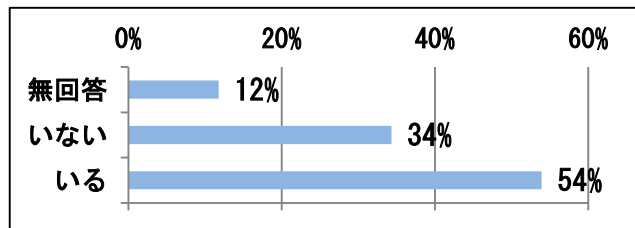
地震発生から避難先へは何分ぐらいかかりましたか。

（回答数：102）



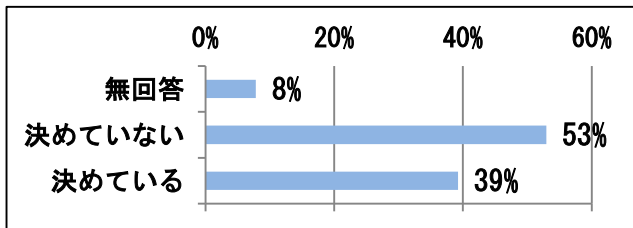
あなたの周辺には避難行動要支援者がいますか。

（回答数：102）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。

（回答数：102）



自由回答欄

- ・ 二人とも年齢が高い（83歳、77歳）ので、災害がないことを祈るばかりだ。
- ・ 今回は、避難所開設訓練もしたが、自分でやってみるにより、大変勉強になった。
- ・ この度の訓練はとてもいい経験になった。参加して良かった。家庭でも防災用品を用意して、いざと言う時に準備しておきたい。
- ・ 危険な状態になった時にどうやって連絡が来るのかわからない。（防災ラジオはあるが、それしかないのだろうか。）
- ・ 一度でも訓練を経験しておくのと、いざと言う時違うと思う。
- ・ とても良い経験になった。今後に活かしたい。
- ・ カレーライス美味しかったです。ごちそうさまでした。訓練したことが役に立ちそうです。
- ・ 皆様のご協力ですべての訓練に参加でき、ありがとうございました。

